

≪祈禱会の聖書から≫ 聖書箇所には、もとても判りやすいことが書いてあります。“友のために良いことをする”のは良いことですし、誰も反対はできないでしょう。その最高の姿が救いです。イエス様は私たちに宗教上のかせと規則を与えるために働かれたのではなく、救いと癒しを示して下さるために働かれたのですから、当然でしょう。しかし、聖書を誤って読んでしまうことがあります。神様が私たちのために、理性と技術を与えてくださったにもかかわらず、しかもそのことを知っていながら、“輸血”などの医療行為を拒否したりするのを見聞きすると、首を傾げたくなるのは当然のことでしょう（エホバの証人の一部）。出来る限りの医療技術に与るのは正しいことです。イエス様はマルコ2：27で“また彼らに言われた、「安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない。」”と語られている通りです。旧約聖書に出てくる十戒をみてみましょう。“七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。（出エジプト記20：10～11）”とあります。六日の間、それぞれの召しに従って働くことが求められ、七日目には、主なる神をおぼえてこの日を“祝福して聖とされた”という御言葉を忘れてはいけません。すなわち休息するということが、直接の目的ではなく、完全に神様の支配が行き渡っていることを覚える日だと、理解するのが正しいのです。私たちが週に一度、第一日に、復活の主を覚えて礼拝をまもらせていただくのも、このことに由来しています。そこで私たちの毎日ですが、日曜日を聖なる日だとしているのでしょうか。もう一度“確かにそうだ”と思いたいものです。ユダヤ教信仰が戒律を重んじることに、陥ってしまっていることを、イエス様はまず指摘されます。戒律を重んじること自体が、見栄や余裕を意味しているのです。本当に救われることを必要としている人々には、主が“何をして欲しいのか”と随所で聞いておられるとおおり、“救わりたいのです”という言葉がふさわしいのです。私たちの礼拝は、戒律から離れ、“主の招きに応えるものである”なら、永遠にまもられるのです。何故なら、私たちが弱くなり、戒律や打算に頼れない時がやって来るからです。

週報

2007年 8月 5日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸